
妖と陰陽師

瑠璃色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖と陰陽師

【Zコード】

Z3966Z

【作者名】

瑠璃色

【あらすじ】

注意

これは作者の妄想から出来てますのでクオリティが低いです。

関東大妖怪任侠一家奴良組の三代目、ぬらりひょんの孫の奴良リクオが通う学校に転校生がやってきた。

「花開院 朝日です。よろしくお願ひします。」

花開院と名乗る彼女の正体とは?

京都編

再び京都にやってきた清十字怪奇探偵団。

清十字怪奇探偵団が京にはびこる悪を滅するーー?

設定

設定

花開院 朝日（けいかいん あさひ） 妖怪の時 茜色 朝日（あかねいろ あさひ） 13歳

妖怪と陰陽師の娘。

見た目 黒羽丸の人間で女バージョンのような感じ。和風美人だが夜になると瞳が紫色になる。妖怪の時と人間の時の外見がほぼ一緒。陰陽師として居る時は何処でも黒縁眼鏡にポニー テール。

性格 お姉さんぽい。少し抜けている所がある氷麗のサポート役。公私きちんと分けていて、公 真面目で努力家。完璧人間。私 秀元と悪のり、からかいをしている。お茶目。

力 齢六歳にして陰陽術をきわめた努力型の天才。休日は陰陽師として一人で仕事をこなしている。誰も知らなかつたが式神破軍を使える。ちなみに戸籍上では花開院 朝日となつていて真名を知っているのは奴良組、花開院のごく一部の人物のみ。

その他 奴良組には修行の合間や手が空いている時の長期休暇のとき遊びに来ていた。やることが無いので色々経験しようと世界をまわっていた。秀元と仲が良い。氷麗とも姉妹のように気が合う。奴良組の頼れる妹的存在。

付け足しがありましたら追加します。

設定（後書き）

付け足しました。

分からぬところがあつたらいつてください。

転校生（前書き）

本編です！
力ナ視点となっています。

転校生

浮世絵町。奴良リクオの通う学校。

「今日は転校生を紹介する」

ザワツ！クラスが急に騒がしくなる。男？女？どんな子？と話している。私はチラツとリクオ君を見る。リクオ君は特に興味がないようで班の男子の話に相槌をうつてくる。

「静かに！入れ」

先生は一喝した後転校生を呼ぶ。どんな子だろう？と顔、ドアを食い入るように見つめている。私もドアを見つめた。

ガララッ！入ってきたのは黒髪の和風美人な女子。

「花開院 朝日です。よろしくお願いします」

花開院？じゃあこの子も陰陽師なの？

この間家のこと我が一段落して戻ってきたゆらちゃんの方を見る。ゆらちゃんも困惑していた。たまたま一緒に名字なだけかも。私はそう結論付けて考えるのを止めた。

お皿。屋上。

私と巻さん、鳥居さん、島君、清継君はリクオ君、及川さん、ゆらちゃん、朝日さんを追っていた。なぜならお皿になると、四人で駆けつてしまつたからだ。

「どうぞ」とやへ朝日姉。うち、何も聞いてへんけど

ゆいりちゃんが朝日さんに詰め寄る。

朝日姉と呼んでいたから、やっぱり知り合いだつたみたい。でもなんでさつき困惑していたのかな？

「え、竜一から聞いてない？」

「聞いてへん……」

ゆいりちゃんは一気にまくしたてたからかゼーハー言っている。

「朝日、久しふり

リクオ君が笑う。及川さんも「コッ」と笑う。

「久しふり、氷麗、『総大将』！」

その言葉が意味する」と「気づくのは後一分後のこと。

転校生（後書き）

グダグダで申し訳ありません（ - ー - ; ）
誤字、脱字ありましたら指摘お願いします。 ^m(ーー)m^
感想も書いていただけると嬉しいです。

朝日の秘密（前書き）

今回も力ナちゃん視点です！

今回、試しに会話文と地の文を一行あけて書いてみました。
感想があつたら感想書いてくれると嬉しいです。

「じゃあ朝日も妖怪・・・なの？」

巻さんが信じられないという表情で尋ねる。私たちも妖怪についてはこの間、リクオ君と及川さんに聞いたばかりだからよく分からなければじりクオ君の事を『総大将』と呼ぶのは妖怪だけだということぐらい分かる。

「うふ。そーよ」

深刻な表情で聞いたのに、朝日さんの返事は拍子抜けするぐらいうつさり、すつきつしたものだった。リクオ君と及川さんとゆりちゃんが苦笑している。

「妖怪と陰陽師のハーフなの」

重大な秘密な筈のこともばらしている。皆睡然としているし、飄々とした宮司さんのような格好をした人がやつてきた。確かゆりちゃんの式神の・・・。

「秀元、学校終わるまで待つてよー」

「えーおひつじぐらいいいやんかー。なあゆりちゃん」

秀元さんがゆりちゃんに尋ねるが、ゆりちゃんは固まっている。どうしたんだろう?そんな驚くことかな?ゆりちゃんの式神なんだからびっくりすることないのに。

「うひ、破軍よんでないで

えつへ秀元さんはずむりひやんの式神じゃないの？それにゆひやん
じやなかつたら誰が呼んだんだろう？清継君たちも困惑してこる。

「私が呼んだの。秀元はやらだけの式神じゃないの」

『なるほどー』

皆の声が重なる。回じことを考へたのかな？

「やうやう飯にしない？」

リクオ君の提案で「飯を食べる」とした。

そして成り行きで朝日さんも清十字怪奇探偵団に入るとなつた。

放課後

「週末、京都に行こう。の間は妖怪に会えなかつたしねー。」

『えーーー。』

すぐ嫌な予感がする。あの時みたいにならなことこいけど。。。

朝日の中の秘密（後書き）

どうでしたか？

悪い点、その他感想ありましたら感想に書いてください！

京都へ（前書き）

今回は神視点です。

京都へ

奴良組の朝は遅い。なぜなら妖怪というのはだいたい夜行型だからだ。

そんな奴良組に日の昇つたばかりの時間に身だしなみを整えている者がいた。

花開院 朝日

花開院家の陰陽師にして、奴良組の妖怪。

珍しく朝日は和服を着ていた。白い着物に藍色の袴。そして黒縁眼鏡に、ポニーテール。

なぜこんな格好をしているのかといふと、朝日は陰陽師として居るときはいつもこの格好なのだ。

朝日曰く「形から入るタイプだから」らしい。

今日は京都に行く日。一人は寝れないほど心待ちに、一人は悪夢を見るほど来て欲しくなかつた日。

集合場所。

「遅いじゃないか！ん？朝日さん、それは陰陽師の服なのかい？」

清継が朝日の服がいつもと違うことに気がついたよつて朝日に尋ねる。

「違うよ。けどいつもこの格好だから。ほら、何事も見た目からつていうでしょ？」

清継と朝日はのんきに話していたが

「二人とも早くしないと出発しちゃうよー！」

リクオの声で一人も駅に入つていった。

「この間は妖怪に会えなかつたけど今回こそは！」

清継はそんなことを言つてゐるが、カナや鳥居からしたらいい迷惑だ。

だが清継がそんなことに気がつくわけもなく、三者三様に京都へ思いを馳せていた・・・。

京都へ（後書き）

突然ですが朝日の妖怪の時の名前を変更させていただきます。
謹聖 茜から茜色 朝日（あかねいろ あさひ）になります。
理由は読み返していたら、名前が違うのはわかりずらいと思つたからです。

すみませんm(—_—)m

後、設定も付け足したので見てみてください。

花開院家（前書き）

ゆうひやん視点です。
かなり工セ京都弁です・・。
作者は東京生まれで京都行ったことないです。

花開院家

「ただいまー」

うちらを出迎えてくれたのは秋房兄ちゃんやつた。

竜一兄なら絶対やつてくれへんお茶と菓菓子を出す」とまでもやつてくれた。

まったく竜一兄も秋房兄ちゃんを見習つたらどうなんや。竜一兄にゆつたら怒られそうやなあ。

「わ、お煎餅、置に落とせなこの。氣をつけて」

朝日姉も竜一兄とは大違いや。「ちも人のこと言えへんけど。朝日姉はうちと同い年やけど昔からなんでもできて優しかつた。うちと二人きりになるといたずらっこみたいな表情になつて、よくふざけてた。朝日姉は修行も手伝つてくれてたから、外国に行つちやつて少しあみしかつたなあ。

「わ、またお煎餅落としてるよ..どつしたの? まーっとしがやつて」

「考えい」としてただけや

うちがそういうと彫つていた表情を明るくさせた。朝日姉は優しいが怒るとめぢやくひや怖いんや。にこにこと不気味なぐらい笑顔で笑い掛けられたら即死もんや。

「朝日を怒らせてはいけない」

とこう沈黙の了解があるほど。陰陽師としても超一流なんや。竜一
兄に陰陽術の基本を教えたのも朝日らしい。

「帰つてきてたのか？」

花開院家（後書き）

区切りあまりよくなかったですね。

次回朝日のもうひとつ秘密があきらかに！？

ヒントは「朝日って身長、165cmもあるって高いよね？」と「

竜二つて年下に習つかな？」です。

答えは次回のお楽しみです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3966z/>

妖と陰陽師

2011年12月15日22時49分発行